

わらび WARABI

市議会

だより

No. 193

2016・3

編集

蕨市議会議会だより編集委員会

TEL/048-433-7733

FAX/048-432-7991

Eメールアドレス

gikai@city.warabi.saitama.jp



目次

市長提出議案を全て原案可決・推薦	P02
意見書を国に提出	P03
頼高市長のあったか市政を問う	P04
3月定例会の日程（予定）	P11
12月定例会における賛否結果・編集後記	P12

ご意見をお寄せください

今回の表紙写真は、昨年の「蕨市民公園桜まつり」でのワンカットです。美しく鮮やかに咲く桜を背に、武南高校ダンス部の皆さんが華麗なダンスを披露して、素敵な笑顔でポーズをしてくださいました。今年の桜まつりは3月26・27日に開催される予定です。今から待ち遠しいですね。

ぜひ、今後の参考のために市議会だよりについての感想やご意見をお聞かせください。

12月定例会において 市長提出全18議案を原案可決・推薦

12月定例会は、11月26日から12月16日まで
の21日間の会期で開催されました。

今定例会では、初日に総務・環境福祉経
済・教育まちづくり常任委員会が閉会中に行
った調査活動について、委員長報告が行われ
ました。

続いて11月30日には人事案が先議され、原
案のとおり推薦とされました。また、その他
の議案については質疑と委員会付託が行われ
ました。

3日間にわたった一般質問では、健康づく
りへの取り組み、職員の労働環境及び労働条
件、各地域の諸課題等、市政の重要課題を14
人の議員がそれぞれ取り上げ、執行部の見解
を問いました。

最終日には人事案以外の市長提出議案が全
て原案どおり可決されました。さらに、選挙
管理委員会委員及び委員補充員の選挙を行っ
た後に、議会運営委員会が閉会中に調査活動
を行うための「閉会中の継続審査事項の委員
会付託」、「議員派遣」、2件の議員提出議案
を議決し、閉会となりました。

「平成27年度一般会計補正予算（第3号）」を原案可決

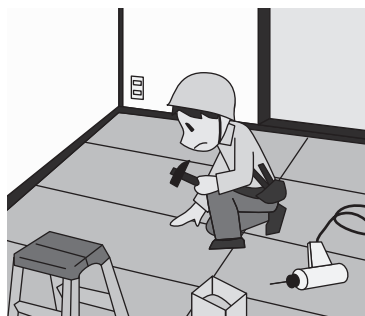
12月定例会には、一般会計
予算を3億6千45万4千円
増額する補正予算案が提案さ
れ、全会一致により原案可決
となりました。主な内容は次
のとおりです。

◆子育て支援

「子ども・子育て支援新制
度」がスタートしたことに伴
い、民営認可保育園が行う保
育に対する委託料の公定価格
の見直しが行われたことによ
り、民間保育園運営委託料を
増額します。

◆教育環境

西小学校の敷地の一部とし
て昭和26年から借用してい
る土地について、賃貸人から
の市に売却したいとの申し出
を受けて、学校敷地としての
必要性を考慮し、購入するた
めの費用を新規計上します。



◆住宅改修助成

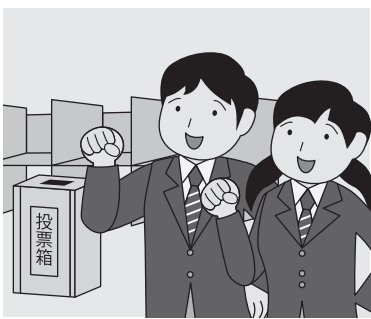
市内施工業者により個人住
宅の改修工事を行った場合に、
その経費の一部を助成する住
宅改修資金助成金制度は、多
くの皆様に利用されています。
本年度に限り、国の交付金を
活用して10万円以上の工事
に対し、工事費の10%で20万
円を上限として助成するよう
拡充したところ、申請額が予
算額を上回る状況となったこ
とから予算額を増額します。

◆商店街活性化

中央商店会が実施する街路
灯のLED化工事に対して経
費の一部を補助するため、商
店街活性化事業費補助金を増
額します。

◆選挙権年齢の引き下げ

公職選挙法の一部改正によ
り、選挙権を有する者の年齢
が満18歳以上になるため、現
在使用している名簿管理シス
テムと投票管理システムを改
修します。



選挙管理委員会選挙

選挙管理委員会委員長から
の依頼により、選挙管理委員
会委員及び委員補充員（任
期：平成27年12月21日～平成
31年12月20日）の選挙を行っ
た結果、次の皆さんがそれぞ
れ委員及び委員補充員に当
選されました。

◆選挙管理委員会委員
今後は各選挙の管理、選挙
人名簿の作成及び選挙啓発活
動等の職務を執行することと
なります。

●選挙管理委員会委員補充員

中村和雄さん	岡田榮次さん	須田信孝さん	加藤道夫さん	松本洋幸さん	橋本隆男さん	原田康さん	瀧澤公一さん
--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------

「夜間中学の整備と拡充を求める意見書」を 内閣総理大臣及び関係各大臣等に提出しました!!

本意見書を全会一致で可決し、内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・文部科学大臣・衆議院議長・参議院議長に提出しました。

内容 現在、夜間中学は全国8都府県に31校しかなく、北海道、東北、北関東、中部に加え四国や九州には、自主夜間中学はあっても夜間中学校は1校もない状況である。全国夜間中学校研究会の推計によると、15歳を過ぎて義務教育が修了していない者は、百数十万人にも上るとされている。また現在、夜間中学在籍者のうち外国人が占める割合は8割を超え、その約6割は日本語の習得を目的としている。この夜間中学で学ぶ外国人の中には、日本の義務教育を終えていないために、就職や進学ができず困っている方も多くいる。地域においては言葉とともに、日本の文化や社会の仕組みを知らない、長く住む上でいろいろな問題が生じる。夜間中学の現状から考えると、日本に住み、日本語を学びたい外国人に対応した整備と拡充が求められる。一方、夜間中学がある地域においても、入学要件が「市内在住」もしくは「市内での正規就労6カ月以上」などとなっており、夜間中学が開設さ

れている市外に住む方々の就学の機会が制約されている状況がある。このような現状に適切に対応することで、地域の活性化、治安の改善にも資すると考えられる。また、政府が掲げる一億総活躍社会を実現するため、希望する人々に対して夜間中学への就学の機会を、国籍や居住地等に関係無く提供出来るように、以下の夜間中学の整備と拡充のための取り組みに対する迅速な対応を求める。

①年齢・国籍・居住地に関係なく希望する誰もが学べる夜間中学の全都道府県への設置促進。
②夜間中学における日本語教育のため、教員の加配を含めた専門家の配置を目的とした国と都道府県の連携した財政支援。
③義務教育未修了者や在留資格を持つ外国人に配慮した広報の展開や、低所得者に対する授業料減免などの誘導策の推進。



○日程

平成28年2月3日～4日

○視察地・調査事項

◆岐阜県可児市

「地域課題解決型キャリア教育支援事業及び議会改革について」

◆岐阜県多治見市

「市民と議会の対話集会及び議会改革について」

○調査事項

可児市議会の地域課題解決型キャリア教育支援事業は、各種団体等の協力を得て、若い世代の意見を聞く機会を設け、地域の活性化や課題に取り組むことで地域の担い手育成につなげていくことを目的とし、地域課題懇談会や高校生議会を開催しています。

学校のカリキュラムに議会が支援をするメリットとして、若い世代の議会への親近感や開かれた議会への理解の高まり、若い世代の考えを政策・提言に反映できること等が挙げられた一方で、他の高校への事業拡大、地域へのさらなる浸透、事業の多様化等が課題として挙げられました。また本来、行政が取り組むべきテーマと考えるのが自然とも思われる、高校生のキャリア教育への支援や地域の担い手育成に、議会が自ら踏み込む点に議会としての地域貢献への強い覚悟を感じました。

多治見市議会の市民と議会の対話集会は、一般的な議会報告会のように決まったことの報告に意味があるのか、その報告が政策提言につながるのかと

議会運営委員会行政視察報告



という問題意識から検討されたものです。市民と議会との対話集会では議会側からの報告事項ではなく、市民との対話や意見交換に重きが置かれており、第1回から第4回の対話集会までの4年間の取り組みから「①参加者の固定化」・「②若い世代や女性参加者の少なさ」・「③単なる報告から政策提言への発展」・「④執行部の実施する地区懇談会との差別化」という課題が表面化したそうです。これらに対し、「テーマごとによる会場設定」・「平日・休日の昼間の開催」・「対面式から車座への変更」等を改善策として講じ、特に①②④において改善が図られたとのことでした。昨年は中学生や高校生との対話集会も実施していますが、残された課題である「③単なる報告から政策提言への発展」に今後、全力で取り組んでいくというお話を伺うことができました。